

パーソナルミュージックとは何か —音楽が物語をまとうとき—

What is Personal Music? : When Music Wears a Narrative

吉井 美祐[†], 正田 悠[‡], 阪田 真己子[†]
Miyu Yoshii, Haruka Shoda, Mamiko Sakata

[†]同志社大学大学院文化情報学研究科, [‡]京都市立芸術大学音楽学部
Graduate School of Culture and Information Science, Doshisha University,
Faculty of Music, Kyoto City University of Arts
ctmn0019@mail4.doshisha.ac.jp

概要

本研究では、パーソナルミュージックである「人生で最も重要な曲」と「お気に入りの曲」に結びつくエピソードの違いを検討した。多くの楽曲が重複せず、流行曲が多かったことから、楽曲が個人の経験や記憶と結びつくことで固有のものになることが示された。また、選ばれた年齢はレミニセンス・バンプ期と一致していた。楽曲のエピソードは、重要な曲は自己の経験や記憶との結びつき、好きな曲は感情や印象、メディアの影響など外的要因も関与していることが示唆された。

キーワード: パーソナルミュージック, 人生で最も重要な音楽, お気に入りの音楽, レミニセンス・バンプ

1. はじめに

私たちは日常的に音楽を聴取するため、音楽は自身が経験した出来事の記憶である自伝的記憶を想起させる手がかりとなる。Rathbone ら (2017) は、中年期以降、個人にとって重要な歌 (personally significant songs) は 10 代後半～20 代前半に聴取した音楽が中心であり、特定の出来事の想起を促すことを示した。

これまでの音楽聴取の研究は、実験者が設定した音楽に対する聴取者の反応を確かめるものが大半を占めていた。しかし、Baumgartner (1992) のように「個人が選んだ音楽」が引き起こす影響に関する研究もわずかにみられる。特に、「個人ごとに異なる関わり方を持つ音楽」に着目したもので「パーソナルミュージック」や「パーソナルソング」に関する研究がある。これらは、個人が自ら選んだ音楽であり、その関わり方が人それぞれで異なる点に焦点を当てたものである。

正田ら (2021) は、「人生で最も重要な歌」を「パーソナルソング」と呼び、個人にとって重要な歌が形成される時期である大学生を対象に、パーソナルソングに関わるエピソードと聴取時の感情反応の関係を探索的に調べた。その結果、パーソナルソングは日常的な出来事から強い情動体験まで幅広いエピソードと関連し、エピソードの違いが音楽聴取時の感情的変化に影響す

ることを示した。

また、小泉 (2007) は、パーソナルミュージックを「個人的にお気に入りの音楽」と定義した。社会的に流行した音楽や同世代・異世代に共通する音楽が公的な性格を持つのに対し、パーソナルミュージックは私的な性格を持ち、選ばれる曲は多岐にわたることが得領であると述べている。

このように、パーソナルミュージックは「人生で最も重要な歌」や「個人的にお気に入りの音楽」と表現されてきたが、どのような教示を与えるかによって、挙げられる楽曲やその性質が異なる可能性があるにもかかわらず、これらの表現の違いと挙げられた楽曲の特徴との関連については検討されていない。また、「人生で最も重要な歌」を特定できない者も存在する可能性も考えられる。

そこで本研究では、「人生で最も重要な曲」と「お気に入りの曲」のそれぞれに結びつくエピソードとその特徴の違いを明らかにすることを目的とする。

2. 方法

本研究では、2024 年 11 月 16 日から 2024 年 11 月 18 日に無記名のオンライン調査を行った。回答者は 618 名 (20 代 155 人, 30 代 152 人, 40 代 156 人, 50 代 155 人) であった。

はじめに、「あなたがこれまで生きてきた中で、最も重要な曲のことを【パーソナルミュージック】と呼びます。最も重要な曲を思い浮かべるのが難しい場合、最もお気に入りの曲を思い浮かべてください。」と教示した。その上で、パーソナルミュージックを一曲挙げてもらい、楽曲名、アーティスト、その曲がパーソナルミュージックになったきっかけや理由 (自由記述)、現在の聴取頻度、よく聴いていた年齢、その曲を聴いたときの感情反応や身体反応などについて回答を求めた。

3. 結果

3.1. 選ばれた楽曲

618人の参加者から、511曲が「パーソナルミュージック」として挙げられた。上位の楽曲とアーティストを表1に示す。「世界に一つだけの花」「終わりなき旅」など複数人が共通して挙げた楽曲があるものの、468曲（511曲中91.59%）は重複がない曲であった。また、366のアーティストが挙げられた。「Mr.Children」「Mrs. GREEN APPLE」「SMAP」など複数人が共通してあげたアーティストがあるものの、280アーティスト（366アーティスト中76.5%）は重複がなかった。ジャンルについては、55.5%の参加者がJ-Popの楽曲をパーソナルミュージックとして回答した。

表1 選ばれた楽曲

楽曲		アーティスト	
世界に一つだけの花 (SMAP)	8	Mr.Children	27
終わりなき旅 (Mr. Children)	5	Mrs. GREEN APPLE	12
innocent world (Mr. Children)	5	SMAP	12
Let It Be (The Beatles)	5	B'z	8
ケセラセラ (Mrs. GREEN APPLE)	5	モーツァルト	6
STORY (AI)	4	中島みゆき	6
HANABI (Mr.Children)	4	GReeeeN	5

3.2. お気に入りの曲と人生で最も重要な曲

回答者が挙げた曲が「お気に入りの曲」か「人生で最も重要な曲」かについての集計を表2に示す。全体の80.6%が「お気に入りの曲」を挙げており、「人生で最も重要な曲」を回答は19.4%で、「人生で最も重要な曲」よりも「お気に入りの曲」が多く回答された。

表2 楽曲の分類（お気に入り/重要）

	n (人)	割合 (%)
お気に入りの曲	498	80.583
人生で最も重要な曲	120	19.417
合計	618	100

3.3. よく聴いていた年齢

パーソナルミュージックをよく聴いていた年齢の分布を図1に示す。お気に入りの曲、重要な曲のいずれにおいても、10代から20代によく聴いていたとする回答が多くみられた。

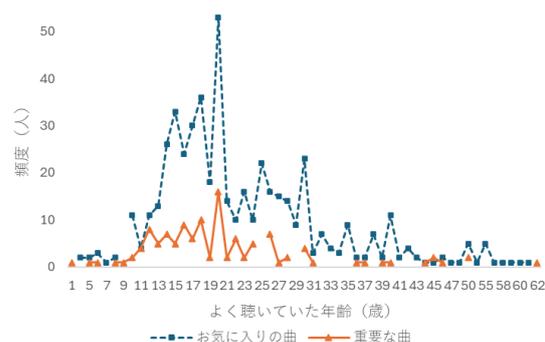


図1 よく聴いていた年齢

3.4. 世代

世代との関連性を明らかにするために、独立性の検定を行った。クロス集計表を表3に示す。その結果、有意な関連は見られなかった ($\chi^2(1) = 0.70, p = .403, Cramér's V = .034$)。

表3 世代とのクロス集計

	若年層	中高年層	合計
お気に入り	252 (50.602%)	246 (49.398%)	498 (100%)
重要	55 (45.833%)	65 (54.167%)	120 (100%)

3.5. 流行曲か

「お気に入りの曲」として挙げられた楽曲の62.7%、「人生で重要な曲」として挙げられた楽曲の51.7%が流行曲であり、半数以上の楽曲が流行曲であった。また、楽曲が流行曲であるかとの関連性を明らかにするために、独立性の検定を行った。クロス集計表を表4に示す。その結果、有意な関連が見られた ($\chi^2(1) = 4.43, p = .035, Cramér's V = .085$)。「お気に入りの曲」として挙げられた楽曲の方が、流行曲であった割合が高かった。

表4 流行曲かとのクロス集計

	流行曲でない	流行曲	合計
お気に入り	186 (37.349%)	312 (62.651%)	498 (100%)
重要	58 (48.333%)	62 (51.667%)	120 (100%)

3.6. 楽曲が人生に与えた影響

楽曲が人生に与えた影響の程度との関連性を明らかにするために、独立性の検定を行った。クロス集計表を表5に示す。その結果、有意な関連は見られなかった ($\chi^2(2) = 0.94, p = .624, Cramér's V = .039$)。

表5 楽曲が人生に与えた影響とのクロス集計表

	あり	どちらでもか	なし	合計
お気に入り	47 (9.438%)	59 (11.847%)	392 (78.715%)	498 (100%)
重要な	8 (6.667%)	14 (11.667%)	98 (81.667%)	120 (100%)

3.5. 音楽全般の重要度

音楽全般に対する重要度の認識との関連性を明らかにするために、フィッシャーの正確確率検定を行った。クロス集計表を表6に示す。その結果、有意な関連が見られた ($p=0.012$)。音楽をより重要だと認識している参加者ほど、「人生で最も重要な曲」として楽曲を挙げる傾向が見られた。

表6 音楽全般の重要度とのクロス集計表

	重要でない	どちらでもか	重要	合計
お気に入り	19 (3.815%)	40 (8.032%)	439 (88.153%)	498 (100%)
重要	2 (1.667%)	2 (1.667%)	116 (96.667%)	120 (100%)

3.6. エピソード

パーソナルミュージックとしてその曲が選ばれた理由やきっかけについての自由記述の傾向を把握するため、頻出語の集計を行った。分析に先立ち、誤字の修正や、「メロディ」と「メロディー」などの表記ゆれを統一した。また、「聴く」と「聞く」については、音楽に関する文脈では「聴く」、それ以外では「聞く」として使い分けた。さらに、本研究のキーワードであるが質問内容を重複しているだけの語は、データから除外した。ここでは出現頻度の高い上位25語を取り上げ、その頻度を図2に示す。最も多く用いられた語は「聴く」(486回)で、次いで「自分」(188回)、「歌詞」(162回)、「好き」(125回)、「心」(92回)などが上位に挙がった。

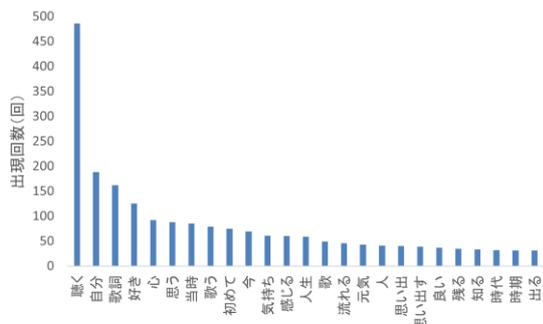


図2 エピソードの頻出語 (上位25位)

パーソナルミュージックとして選ばれた曲のエピソードについて、「お気に入りの曲」か「人生で最も重要

な曲」かを外部変数として共起ネットワークを作成し、語と語の共起関係を可視化した。(図3)。

その結果、「人生で最も重要な曲」と回答した楽曲に関連して多く見られた語は、「考える」「行く」「毎日」「高校」「知る」「記憶」「勉強」「共感」などの語で、自己の具体的な経験や記憶に関連した語が見られた。例えば、「高校の初めての合唱コンクールでクラスで歌うことになった。高校は辛い経験も楽しい経験もたくさんしたから今でも聴くといろいろ思い出す」, 「恋している時に聴いていた曲でバイトの帰りや学校の帰りなどで歌を聴きながら帰っている時に何度もリピートして聴いていた記憶があります」などが挙げられた。

一方で、「お気に入りの曲」と回答した楽曲に関連する語は、「当時」「時代」「落ち込む」「元気」「見る」「印象」「響く」など、曲による感情やの変化や感覚、曲に対する印象、テレビやドラマ、映画を見ているときに使われていた楽曲であることに関わる語が含まれていた。例えば、「落ち込んだ時期があったがメッセージに励まされた。元気で綺麗な歌声が心に響く」, 「小さい頃に大好きだったジブリ作品中に使われていた曲で何度も繰り返し見ていたから」などが挙げられた。

「人生で最も重要な曲」と「お気に入りの曲」の両方に共通して出現した語としては、「歌詞」「思い出」「好き」「自分」「聞く」「今」「人生」「気持ち」「思う」などの語が挙げられており、楽曲が自己の記憶や感情と強く結びついていることや楽曲の歌詞やメロディーが個人の内面に残るといった共通性を示している。例えば、「人生について悩んだ時に自分の心情と合致する歌詞が多く、気持ちの整理をしたいときに聴いている」, 「当時身の回りにいた人を思い出す、思い出が走馬灯に流れるイメージがある。青春時代の恋愛や好きだった人との関係は消えるとけれど、この曲の中に当時のことが詰まっていた聴くたびに思い出す (略)」などが挙げられた。

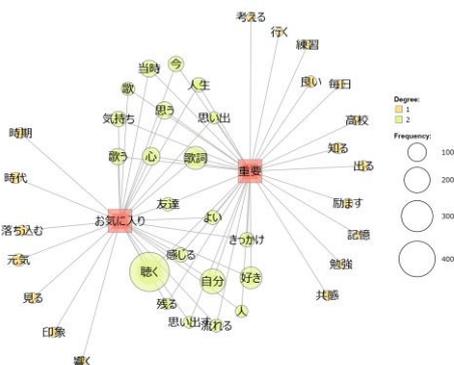


図3 エピソードの共起ネットワーク

4. 考察

パーソナルミュージックとして選ばれた曲の多くの曲は重複がなく、人生そのものを表すような「友達」「人生」「元気」「気持ち」「共感」などのキーワードが出現した。小泉(2007)では、パーソナルミュージックは個人のアイデンティティと密接にかかわり私的な性格を持つとしており、本研究においても人生における個人の経験や価値観が反映され、私的な性格を持つことが示された。

一方で、パーソナルミュージックは私的な性格を持つだけでなく、「お気に入りの曲」「人生で最も重要な曲」の両方において、挙げられた楽曲の半数以上が流行曲であった。このことから、パーソナルミュージックは世間の流行などの社会的な影響を受けていることも示された。従来、パーソナルミュージックは流行といった公的な性格よりも私的な性格を持つとされてきた(小泉, 2007)。単なる街中で流れていてなんとなく耳にしていたような公的な性格を持つ流行曲であっても、音楽にまつわる個人の経験が物語として結びつくことで、私的な性格を持つパーソナルミュージックになると考えられる。

また、よく聴いていた年齢は、「お気に入りの曲」「人生で最も重要な曲」ともに、10代から20代の回答が多かった。このことから、いわゆるレミニセンス・バンプ(Rubin & Schulkind, 1997)と呼ばれる10~30歳の時期に接触した曲が選ばれている可能性が示された。

パーソナルミュージックに結びつくエピソードについては、「お気に入りの曲」「人生で最も重要な曲」のいずれにおいても、楽曲が自己の記憶や感情と強く結びついていること、楽曲の歌詞やメロディーが個人の内面に残っていることが示された。これは、パーソナルミュージックが自己と深く結びつき、自己を反映する存在であることを示唆している。しかし、「お気に入りの曲」「人生で最も重要な曲」には意味づけの特徴の違いが見られた。「お気に入りの曲」は、楽曲自体による感情の変化や感覚、曲に対する印象、テレビやドラマ、映画などのメディアで使用されていたことなどエピソードとして挙げられた。また、実際に挙げられた楽曲には流行曲が多く含まれており、「人生で最も重要な曲」と比較して社会的影響が強く反映されていることも示された。一方で、「人生で最も重要な曲」は、自己の具体的な経験や記憶に関連するエピソードが見られた。こうした傾向は、記憶に関する先行研究と一致しており、

Rathboneら(2017)は、中年期以降、個人にとって重要な歌(personally significant songs)が特定の出来事の想起を促すことを示している。

5. まとめと課題

本研究では、「人生で最も重要な曲」と「お気に入りの曲」のそれぞれに結びつくエピソードとその特徴の違いを明らかにすることを目的とした。その結果、パーソナルミュージックとして挙げられた楽曲の多くは重複がなく、半数以上が流行曲であったことから、個人の経験や価値観が結びつくことによって、楽曲が個人固有のものになることが示された。また、よく聴いていた年齢はレミニセンス・バンプの時期と一致しており、パーソナルミュージックもレミニセンス・バンプの時期に聴取していた楽曲が選ばれていることが示唆された。楽曲に結びつくエピソードについては、「お気に入りの曲」「人生で最も重要な曲」のいずれにおいても、楽曲が自己の記憶や感情、楽曲の内容自体が個人の内面に残っていることが示された。「人生で最も重要な曲」は自己の経験や記憶との関連が強い一方で、「お気に入りの曲」は楽曲による感情や印象、メディアの影響など、外的な要因も関与していることが考えられる。

本研究は、横断的な調査であり、時間経過によるパーソナルミュージックの変化や、記憶との関係については検討できていない。今後は縦断的な調査により、特定の楽曲がどのように「パーソナルなもの」として自己に取り込まれていくのか検討していく必要がある。

文献

- [1] Baumgartner, H. (1992). Remembrance of Things Past: Music, Autobiographical Memory, and Emotion. *Advances in consumer research*, 19(1).
- [2] 小泉 (2007) .音楽をまとう若者.勁草書房.
- [3] 正田, 安田, 中原, 田部井,伊坂 (2021). 大学生における「人生で最も重要な歌」のエピソードと聴取反応: トピックモデルによるデータマイニング. *音楽知覚認知研究*, 27(1), 21-40.
- [4] Rathbone, C. J., O'Connor, A. R., & Moulin, C. J. A. (2017). The tracks of my years: Personal significance contributes to the reminiscence bump. *Memory and Cognition*, 45, 137-150.
- [5] Rubin, D. C., & Schulkind, M. D. (1997). The distribution of autobiographical memories across the lifespan. *Memory & cognition*, 25, 859-866.